



TITLE:

第II部:「物性論研究」の読者及び 投稿者の希望

AUTHOR(S):

CITATION:

第II部:「物性論研究」の読者及び投稿者の希望. 物性研究 1973, 20(3): 86-96

ISSUE DATE:

1973-06-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/88645>

RIGHT:

第Ⅱ部：「物性論研究」の 読者及び投稿者の希望

編集部では読者及び投稿者の本誌に対する希望を明らかにするため、下記のアンケートをとった。アンケート用紙は本誌にとじこんだが、別に各地編集員に郵送し、研究室の人に配布してもらった。読者からの直接の回答は6つあった。残りは各地編集員の方からまとめて回収され、合計135になった。

次にアンケートの整理の方法を述べる。まず大きく、全体と大学別と階層別の3種類の方法で整理する。設問Ⅰについては読者の希望と投稿者の希望を分けて整理した。そのうち読者の希望は第一希望のみ収録したものと、第一希望から第四希望まで重率をかけて平均した平均的希望を出した。重率は第一希望から第四希望の順にそれぞれ、4，3，2，1とした。投稿者としての希望には順位をつけられた回答が少なかったので、順位を考慮しないで第三位までに印のつけられたものの数を数えた。設問Ⅱの存在意義は設問通り二つ以上○をつけたものについて○の数を数えた。最終的に整理して出した数字は次の通りである。設問Ⅰ読者としての平均的希望のみ項目分布に対するパーセントを出した。すなわちa～jに分布した数字の和が100に選ばれている。残りすべてのものは回答者数に対するパーセントを出した。これは読者100人のうち概当する事項を何人の人が希望しているかを示す。設問Ⅲの記述欄は最後にまとめた。編集部で答えることの出来るものについてはまとめて回答した。

ア ン ケ ー ト

回答者の所属と身分()，年齢()

1. あなたは物性研究の記事のどれをよく読みますか。次のうちよく読むものから順に番号(1, 2, ……)をつけて下さい。又投稿する場合、どのような欄に必要を感じますか。必要の大きい順に番号をつけて下さい。

読者として 投稿者として

イ. () () Original 論文

- ロ. () () 研究会報告
- ハ. () () 講義ノート
- ニ. () () 掲示板(公募, 公示)
- ホ. () () プレプリント案内
- ヘ. () () ニュース(人事移動, 談話会のアナウンス, 海外だより等)
- ト. () () 基研研究部員会議, 運営委員会報告
- チ. () () 境界領域特集
- リ. () () 大学特集
- ヌ. () () その他の特集(物性物理の研究体制, 科学情報過剰等)

2. あなたは「物性研究」がどのような点で存在意義があると思いますか。次のうち適当なところに○印をつけて下さい。(2つ以上可)

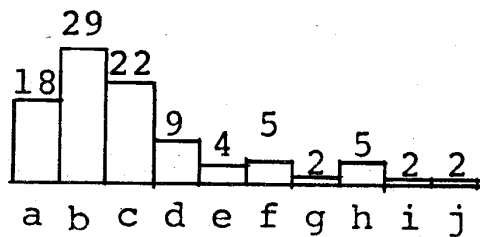
- A. () 研究の誌上討論
- B. () 迅速な情報交換
- C. () 会議報告その他の資料
- D. () 特集
- E. () 廉価
- F. () 自由に気軽に投稿できること

3. 「物性研究」に対する希望があれば書いて下さい。

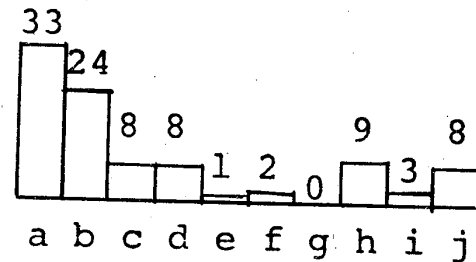
アンケートの結果

図1に回答者全体の結果を示す。これから設問1の読者としての第一希望は、b.研究会報告、c.講義ノート、a.Original論文の順に多いことがわかる。読者としての平均的希望もほぼ同じ傾向を示す。上の3つの次にd.掲示板、f.ニュース、h.境界領域特集が多い。投稿者としての希望ではa.Original論文、b.研究会報告が特に多い。Original論文については読者としてより投稿者としての希望の方が強いことがわかる。投稿者としての希望は前の二つに次いで、h.境界領域特集、c.講義ノート、d.掲示板、f.その他の特集が多い。設問2の本誌の存在意義についてはB.迅速な情報交換をあげている人が半数以上いる。次いでF.自由に気軽に投稿できること、D.特集、C.会議

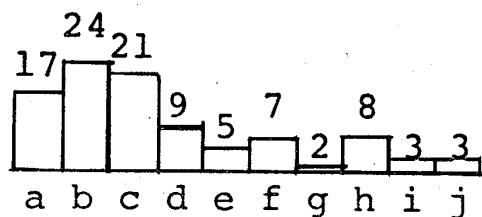
設問1 読者としての第一希望



設問1 投稿者としての希望



設問1 読者としての平均的希望



設問2 存在意義

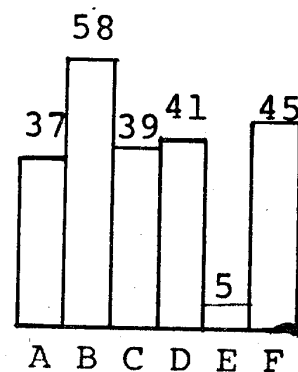


図1 <全体> (135名)

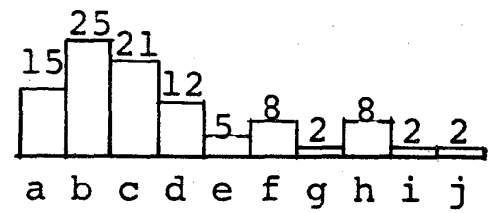
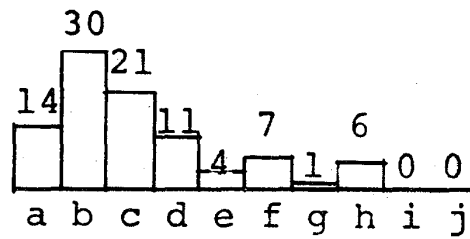
報告その他の資料，A. 研究の誌上討論をあげている人が約4割いる。E. 廉価については回答がほとんどない。これは本誌の価格を安くしないと見ているというより，本誌を安くすることによって存在意義があるという考え方に反対するものと受け取るべきであろう。

図2と図3に大学別に整理した結果を示す。大学を図中に書かれているように4つに分類する。①の大学は中央の大都会にある国立大学，②の大学は，地方の都会にある国立大学，③は地方にある大学，④は私立大学に相当する。まず設問1の読者としての第一希望について見ると，①と②はb. 研究会報告，③と④はa. Original 論文が一番多い。c. 講義ノートはすべての大学で第二位の希望がある。②と③の地方の大学ではi. 大学特集，j. その他の特集に希望がある。きわ立っているのは②でa. Original 論文の希望がゼロであること，③でb. 研究会報告への希望が割合低いことである。設

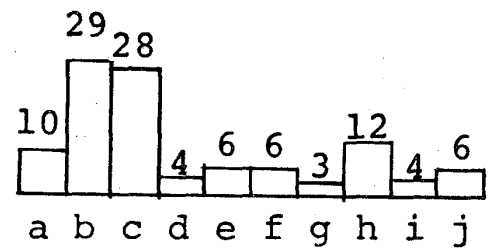
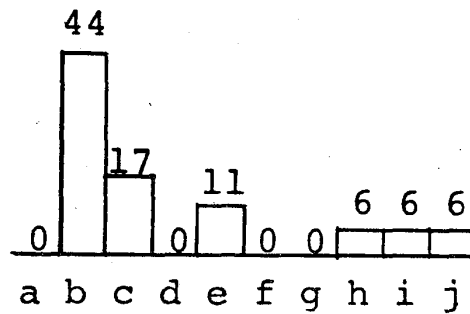
設問1 読者としての第一希望

設問1 読者としての平均的希望

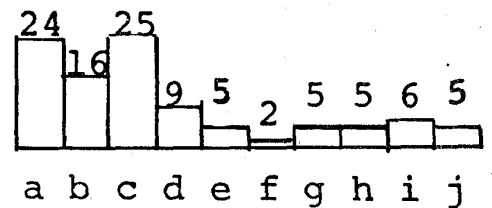
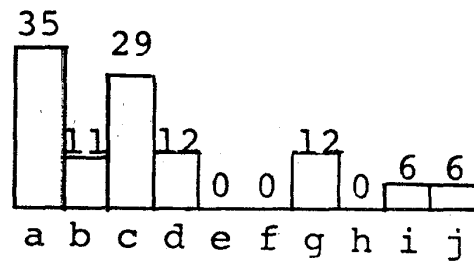
- ① 東大，東工大，
都立大，京大，
阪大，名大，
神大，東教大，
(90名)



- ② 東北大，九大，
北大(18名)



- ③ 信州大，岡大，
岡山理科大，
山形大(17名)



- ④ 早大(10名)

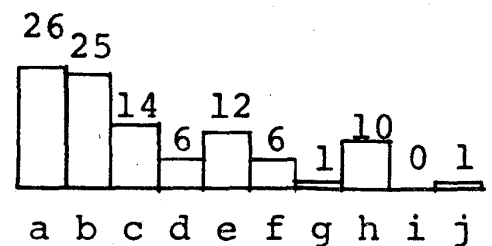
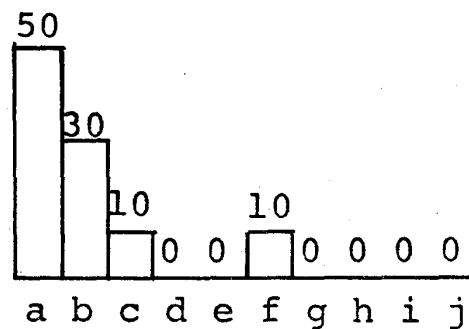


図2 < 大学別 その1 >

設問1 投稿者としての希望

設問2 存在意義

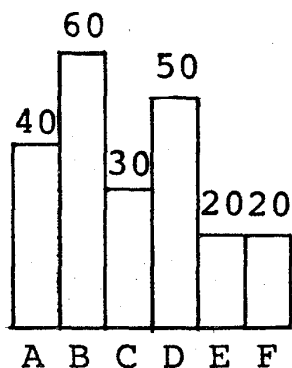
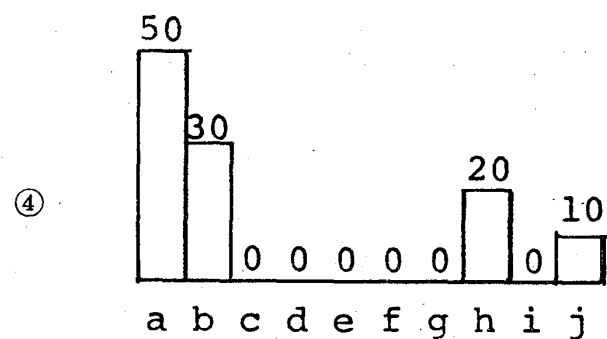
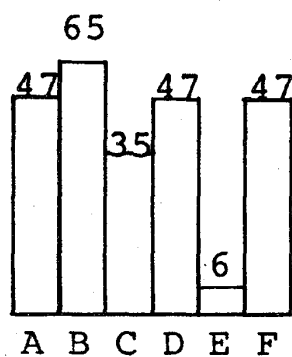
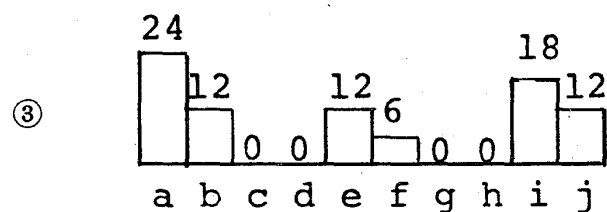
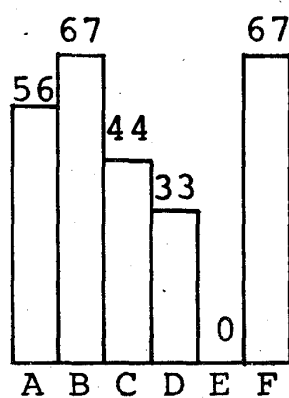
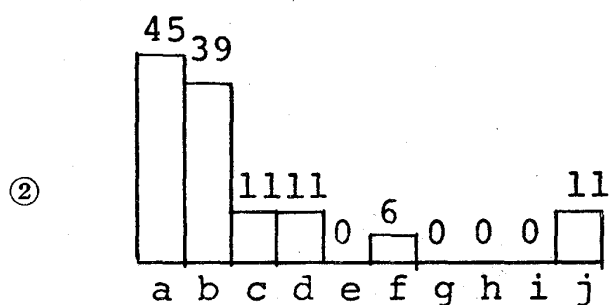
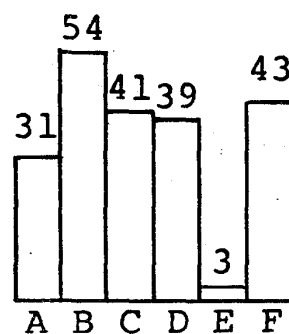
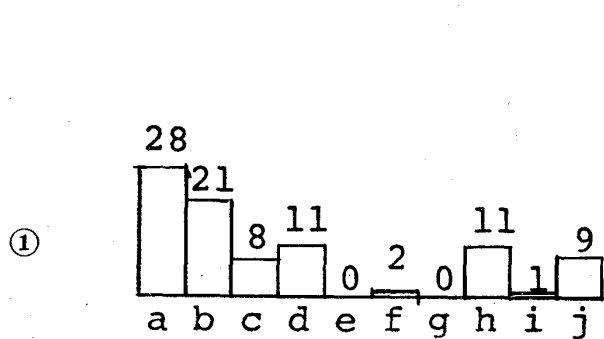


図 3 < 大学別 その2 >

問1の読者としての平均的希望を見ると、前述の傾向はある程度薄めた形で、そのままあてはまっているようである。少しくわだった特徴はh.境界領域特集への希望がどの大学でもかなり見られることである。設問1投稿者としての希望をみると、すべての大学でa. Original 論文の希望が最も多い。又②をのぞく他の大学ではb. 研究会報告が第二番目に強い希望になっている。d. 掲示板とc. 講義ノートは①と②の大学で割合希望があるが、③と④の大学では全く希望がない。h. 境界領域特集については①と④の大学でかなり希望があるが②と③の大学では全く希望がない。i. 大学特集は③の大学でのみ希望がある。j. その他の特集はすべての大学で希望がかなりある。設問2の存在意義についてみると、まずB. 迅速な情報交換がどの大学でも非常に多い。その他の項目についてもE. 廉価をのぞいてかなり多い。

図4と図5に階層別に整理した結果を示す。設問1読者としての第一希望について見ると、(i)と(iv)はc. 講義ノートが一番多く、(ii)と(iii)と(v)はb. 研究会報告が一番多い。a. Original 論文は教授をのぞいて他の階層全てに割合希望がある。きわ立っているのは教授(v)がh. 境界領域特集への希望が大きいことである。全般的に教授は他の階層とかなり希望が異っているようである。設問1の読者としての平均的希望をみると、まず気がつくのは(i)から(v)に進むに従って、a. からj. の方に分布の山が移っていることである。(i), (ii), (iii), (iv)に於て、a. Original 論文, b. 研究会報告, c. 講義ノートに希望が多い。設問1投稿者としての希望について見ると、(i)の要求は全般的に低い。(ii)と(iii)ではa. Original 論文, b. 研究会報告, h. 境界領域特集が多く他は少い。(iv)と(v)では希望する事項が豊富になる。特に(v)はd. 掲示板への希望が最も多くなる。設問2の存在意義についてみると、(i)ではB. 迅速な情報交換とD. 特集の項が多い。(ii)～(v)はほとんどの項目に存在価値を高く認めていることがわかる。

以上をまとめるとOriginal 論文, 研究会報告, 講義ノートの三本柱を読者としても投稿者としても強く希望している。又境界領域特集への希望も強い。この意味で、本誌を学術雑誌及び啓蒙書として利用していることがわかる。又掲示板, ニュース等への希望もある程度見られる。

設問1 読者としての第一希望

設問1 読者としての平均的希望

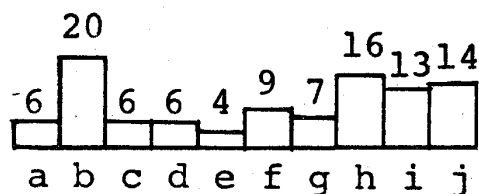
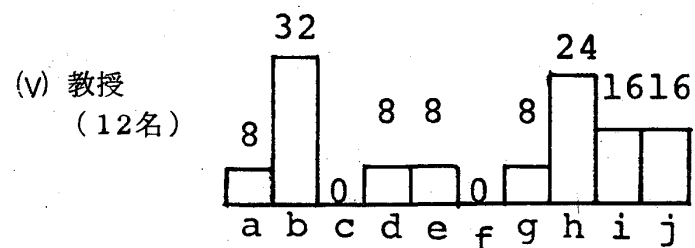
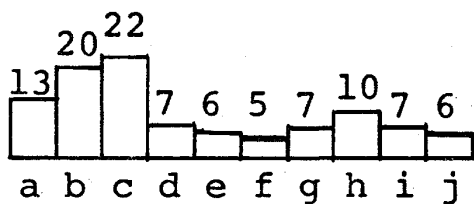
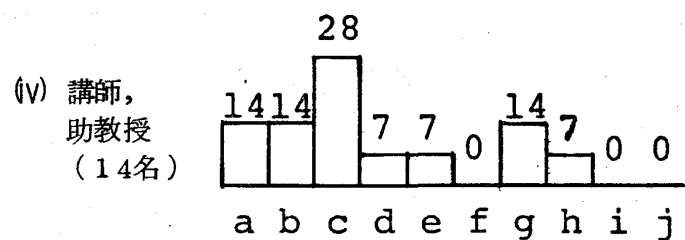
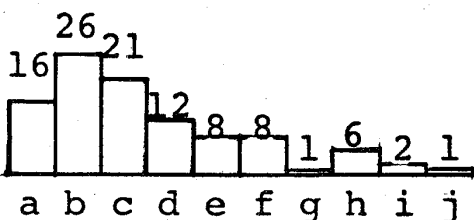
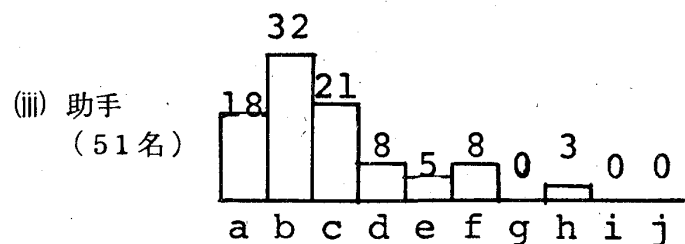
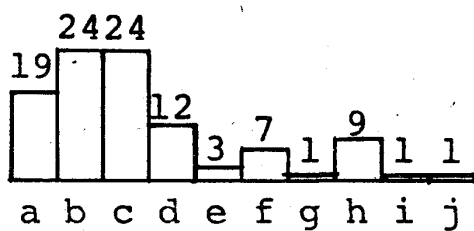
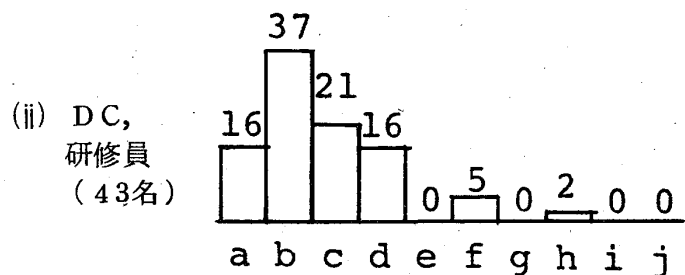
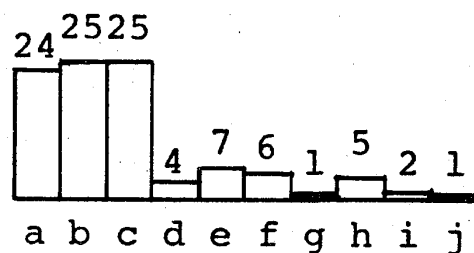
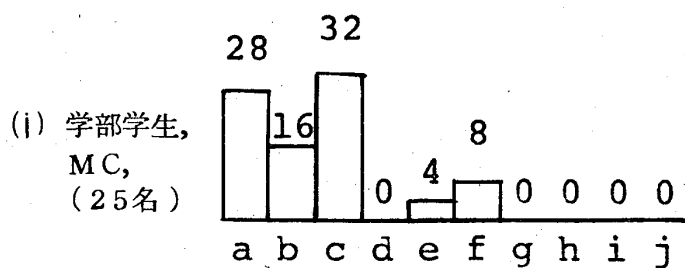


図 4 < 階層別 その1 >

設問2 存在意義

設問1 投稿者としての希望

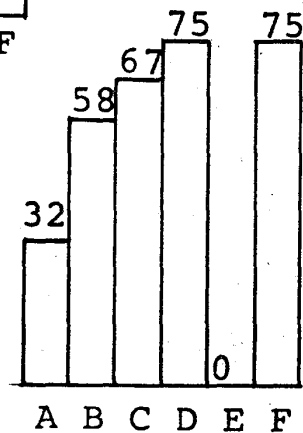
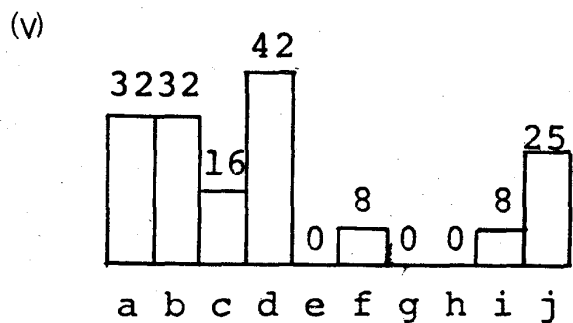
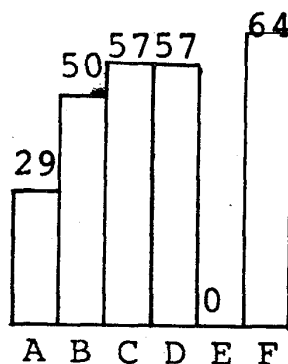
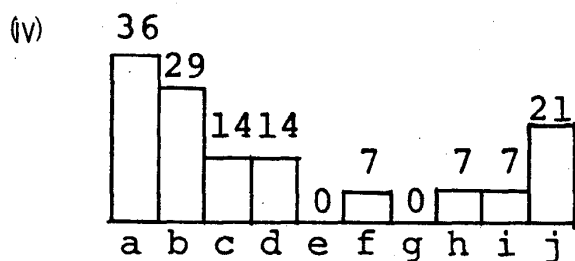
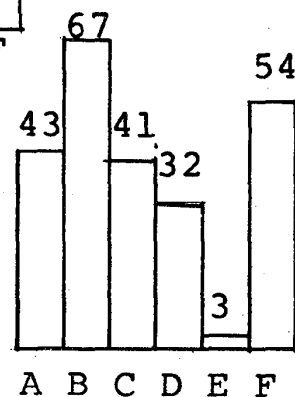
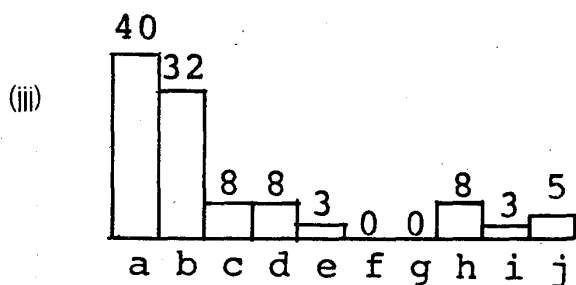
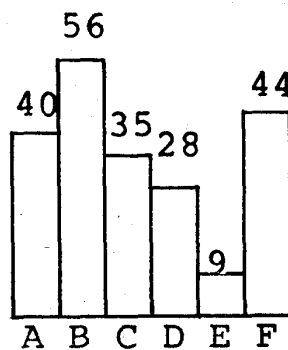
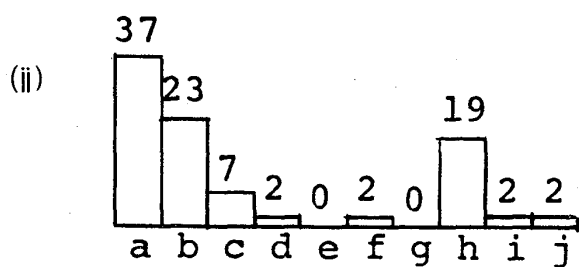
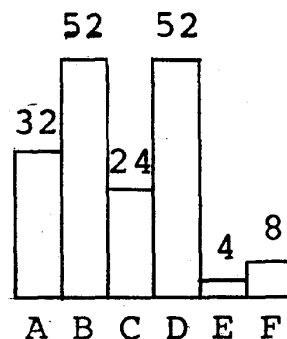
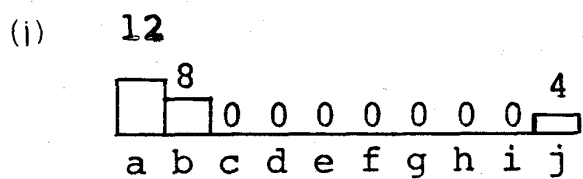


図 5 < 階層別 その2 >

設問3：「物性研究」に対する希望

「オリジナル論文を、日本語で発表するということは、日本語を、そのようなものをも適切に表現しうる言語として、みがいてゆく、つくってゆく、という意味も含まれていると思います。研究の情報交換の効率というみかただけでなく、日本語のもつ可能性の展開という面からも邦文の研究発表誌の存在意義を見直したい。」（信州大理教授）

「境界領域の問題がとりあげられることを歓迎します。政府主導で大学改変が計画され、研究・教育のあり方に影響を及ぼすものと予想される現状に対応する問題など取上げられることが望まれます。」（名大教授）

「地方大学では情報が不足します。特に物性G事務局が現在のような状況ではそうです。基研の諸会議の議事録等はその意味で非常に役に立っています。これが本筋の利用法ではないのですが、日本の物性研究を民主的にすそ野から築き上げるのには、そうした役立ち方も必要かと思います。」（山形大理助教授）

「priorityに関して少し考えたら、もっと「質」が向上するかもしれません。」（東大理D3）

「(a) 現在は「物性研究」ではなくて「物性理論研究」であり、少々かたよりすぎている。投稿がないからと逃げないでしっかりした物性実験家を advisory board にして積極的に打って出ないといけない。」

「(b) 気やすさと空白をもっているという点で本誌の将来を買いたい。特に、もっと思いきって境界領域を開発したらどうか？ たとえば生物・地球科学にとどまらず、社会・人文科学との接点、たとえばローマクラブ的人類滅亡論と物理、言語、文化人類学と統計確率論など……。」（阪大理教授）

「研究会報告、会議報告があるときだけ厚いという状態になってもう長いように思う。しかしこれは基研の公式活動であるから、本来私的な雑誌でなすべきことではないと思う。」

「研究討論誌、研究情報交換誌としての機能を復活させることが必要であろう。しかしながらPTP、JPSJが“気軽”に投稿出来るようになってしまったので、若手にとって純学術的意味はこの雑誌にはもうないのかもしれない。」（九大理助教授）

「preprint が出まわり、研究会がひんぱんにある現在 original な論文や誌上討論を期待するのは無理と思います。広い意味でのニュースを供給する役割に徹して生き残る道をさがしたらいかがでしょう。」（物性研助手）

「論文投稿がもっと増えるとよい。」（岡山大理MC）

「若い人に依頼して学会誌よりもう少し細かい topics に関する Review 等を読せたらよい。」（東大教養OD）

「研究室だよりのようなものを順番に指名して投稿してもらおう。」（京大理研修員）

「MC、DC、程度でも気楽に投稿できれば楽しい。」（京大理D1）

「〇研究と教育という立場から講義ノートを毎回掲載して欲しい。

〇論文については一度程度の校正をしてはどうか。（費用の点で不可能なら仕方ないが。）ミスプリの多いものは何かにつけて信頼性が薄い → 読者が減る。

〇非常に重要と思われる論文の簡単な紹介などもあればよい。」（岡大工）

「研究会報告はできるだけはやく掲載して下さい。」（早大理工M2）

「研究会報告やプレプリント案内はより迅速に掲載して下さいればよろしいのですが。」（東北大教養助手）

「〇既刊の何冊かを入手出来るようにしてほしい。

〇研究会報告は出席できない者にとって貴重。」（早大理工D1）

「学生にも容易に入手できるようにしてほしい。又そのP.R. もしてほしい。」（東工大D3）

「今の方針でよいと思います。」（名大工助教授）

「ひき続き発行してほしい」（教授）

「続刊する様に」（早大理工助手）

— 編集部より —

研究会報告、プレプリント案内をより迅速に掲載するよう希望が出ていますので、現状をお答えします。研究会報告は、研究会が終った後、研究会の世話人が原稿を集め（約2ヶ月程かかる）、編集部に送られてきます。編集部では原稿が400字詰用紙100枚を大巾に越えるときは短縮するよう世話人に書きかえを要求しますし、原稿が

特集：「物性研究」10周年記念

多すぎないときは編集会議（毎月20日頃）を経て印刷にまわされます。プレプリント案内は各地編集員から編集部に送られてきます。印刷は二度の校正を経て、約一ヶ月で出来上ります。ただし、原稿の多少、印刷所の都合で、少し遅れることがあります。

「物性研究」を入手希望される方は直接刊行会にお申し込み下さい。なお5月号から本誌の目次を物理学会誌の掲示板に載せるようにしましたので御利用下さい。